



# 製薬業界におけるパートナーシップを推進

2026年4月21～23日 東京ビッグサイトで開催

医薬品の研究、開発から製造における国際的なネットワーキングイベントとして開催されている、「CPHI Japan 2026」が、4月21(火)～23日(木)の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。23回目の開催となる今回は、世界約30カ国・地域から約800社が出展し、来場者は昨年約3万5000人を上回る見込みだ。展示会は原薬、中間体、添加剤の原料ゾーンをはじめ、研究・開発・製造のアウトソーシング、バイオテクノロジー、機器・装置、パッケージング・製剤開発の5つのゾーンで構成される。さらに、約250セッションのセミナープログラムが展開されるほか、製薬業界のDX化を推進する「ファーマIT & デジタルヘルス エキスポ」を併催される本展は、製薬関係者必見のイベントとなる。



ジャパンライフサイエンスウィーク

LIFE SCIENCE WEEK

## 研究から製造まで幅広いニーズに対応



クリストファー・イブ代表取締役社長

23回目の開催を迎えるCPHI Japanは、創薬研究から開発、製造に至るサプライチェーンをサポートする国際イベントとして過去最大規模で開催される。本年の開催では、業界動向に対応すべく、低分子から核酸、遺伝子、抗体、再生医療などあらゆるモダリティに対応するプログラムが提供される。メインプログラムである展示会には、世界約30カ国・地域から約800社のサプライヤーが出展し、世界70カ国・地域から製薬企業の研究、開発、製造、調達部門等の関係者が一堂に集結。パビリオンは、最大規模を誇る中国をはじめ、インド、韓国、イタリア、ラトビア、日本医薬品原薬工業会、日本

医薬品添加剤協会が設置される。展示製品の 카테고리としては、原薬・中間体・添加剤を中心にCMO、CDMO、バイオプロセス、製剤開発、DDS、パッケージングに至るまで、幅広く医薬品バリューチェーンをカバーしている。日本は高齢化の進行や医薬品の品質および安全性に対する卓越した基準を持ち、世界から多くの注目を集めている市場であり、このような市場特性を踏まえ、国内外の製薬企業が抱える課題に対する最適なソリューションに出会う絶好の機会となる。

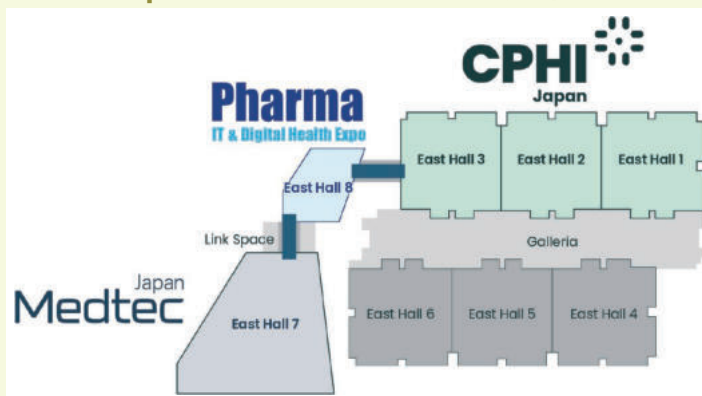
## グローバル規模でのサプライチェーンの構築

製薬業界にとって大きな課題の1つは、後発医薬品の安定供給を持続可能にするための業界の再編が挙げられるが、現在は生産効率問題の改善に向けて取り

組みが進められている。また、政府が定めている17の成長戦略分野には、創薬やバイオが含まれており、今後の創薬力の強化に向けた投資やエコシステムの構築などを通じたドラッグラグ・ロスの改善や創薬大国としてのプレゼンスの向上が期待されている。さらに、あらゆる産業で課題となっている原料調達から製品製造、販売に至るまでのサプライチェーンの見直しや再構築も重要な課題であり、調達面ではパンデミックや輸出国規制、物流の遅延が直接、国内の医薬品供給停止につながるリスクが高まる可能性もある。

このような課題に対応するために国内外のキーパーソンによる関連テーマの講演が行われるほか、約30カ国・地域から約800社の出展社が製品、受託製造事業等を紹介する。

## Japan Life Science Week 2026 展配置図



セミナープログラム【ウェブ事前登録制・無料】

講演場所	講演日	時間	表題	講演者
3K-01	4月21日(火)	9:15~10:30	医薬品審査に関する最近の話題から	厚生労働省 医薬局医薬品審査管理課長 紀平哲也氏
3K-02	4月21日(火)	11:00~12:00	グローバル・バイオテック企業の日本展開を支える産官学連携プラットフォーム	国立がん研究センター 研究所 副所長, 企画戦略局 次長(国際) 都賀稚香氏
3K-04	4月21日(火)	14:30~15:45	CMCを通して医薬品の未来を考える: 変革期に製薬・CDMO・ベンチャーは何を為すべきか	[企画協力] DIA Japan
3K-05	4月21日(火)	16:00~16:30	国内医薬品市場 - 2030年までの展望	IQVIA ソリューションズジャパン ソートリーダーシップ シニアディレクター アラン・トーマス氏
3K-06	4月22日(水)	9:30~11:00	GMP分野の重要課題を解説: リスクベースの調査、リライアンス、そしてAI	企画協力: 日本製薬工業協会
3K-07	4月22日(水)	11:30~12:30	2025年医薬品の研究開発トレンド: グローバルバイオ医薬品パイプラインの現状	Editor-in-Chief, APAC Citeline, Norstella Mr. Ian Haydock
3K-10	4月22日(水)	15:45~16:30	境界を越えて: 熱帯病に挑む共創イノベーション	エーザイ(株) DHBL (Deep Human Biology Learning) 上席執行役員 グローバルヘルスヘッド(兼) 筑波研究所長 塚原克平氏
3K-11	4月23日(木)	9:30~10:30	日本における創業エコシステムの構築	米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 日本副代表 川端裕之氏 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan) 副会長 ノバルティス ファーマ(株) 代表取締役社長 ジョンポール プリシーノ氏
3K-12	4月23日(木)	11:00~12:00	変革期におけるエスタブリッシュ医薬品の安定供給とイノベーション	ダイト(株) 代表取締役社長兼 CEO 松森浩士氏
3K-13	4月23日(木)	13:00~14:30	医療DXが切り拓く日本型医療モデルの未来	〈パネリスト〉 日本製薬工業協会 会長 宮柱明日香氏 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長(公益社団法人全日本病院協会 会長) 神野正博氏 日本アイ・ビー・エム(株) ヘルスケア・ライフサイエンスサービス 理事・パートナー 先崎心智氏 〈モデレーター〉 (株)ミクス 代表取締役 Monthly ミクス編集長 沼田佳之氏
3K-15	4月23日(木)	15:30~16:15	医薬品製造及び品質管理におけるAI技術の活用	(独)医薬品医療機器総合機構 上級スペシャリスト(品質担当) 松田嘉弘氏

医療DX・AIなど先端技術の取り組み

本年は開催3日目の午後に日本製薬工業協会、公益財団法人 全日本病院協会のキーパーソンをお招きして、医療DXをテーマとしたパネルディスカッションが開催される。本セッションを通じて、製薬・医療業界におけるDX化を推進するとともに、我が国における医療制度や体制を持続可能なものとすることを目指している。また、注目を浴びているAI活用については、PMDAによる「医薬品製造及び品質管理におけるAI技術の活用」や併催展の『ファーマIT & デジタルヘルス エキスポ』にて多数の関連セッションの開催が予定されている。

初日基調講演では、本会では初の登壇となる、厚生労働省 医薬局医薬品審査管理課長 紀平哲也氏が昨年5月に成立・公布された薬機法改正の施行や後発医薬品の品質確保対策等について解説を

行う。また、外部団体との連携では、DIA Japanの企画により「CMCを通して医薬品の未来を考える: 変革期に製薬・CDMO・ベンチャーは何を為すべきか」をテーマとしたパネルディスカッションが開催されるほか、ISPE日本本部の企画による「Pharma4.0時代の製薬業界の製造革新 ~グローバル動向を見据えたISPE日本本部の挑戦」、開催2日目には公益財団法人 日本薬学会の企画による各ワーキンググループの研究成果の発表やパネルディスカッションが展開される。

また、業界が目指している創業力の強化を図るために、低分子や遺伝子、核酸、抗体など5つのテーマで約15社の創業・バイオベンチャーの登壇による創業イノベーションをテーマとしたセッションを開催。2日目には、ベンチャーキャピタル、関連団体、創業ベンチャー等をパネリストとしたディスカッションも開催される。

ファーマIT

近年、最も注目を浴びている国内初の製薬×DXイベントとして、2019年から開催されている「ファーマIT & デジタルヘルス エキスポ」が今年も同時開催される。

今回は、研究・開発および製造分野の強化を図り、昨年よりも展示スペースを拡大しており、3日間で約100のスピーカーが登壇するセミナーでは、AI技術を中心に創薬研究から臨床開発、製造、コマーシャル、デジタルヘルスに至るまで業界のDX化を促進し、医療の質や患者さんのQOLを向上するためのプログラムが多数用意されている。

なお、CPhi JapanおよびファーマIT & デジタルヘルス エキスポへの入場はウェブサイトにて事前登録を受け付け中(無料)。

© 2026 The Chemical Society of Japan